

事故防止に向けた安全対策

【バドミントン】

1 競技特性

ネットを挟んでラケットでシャトルコックを打ち合うスポーツである。決められた相手コート内にシャトルを落とすか、相手がフォルトをとられた場合に得点が入る。試合には、1対1のシングルスと2対2のダブルスがあり、ダブルスには男性同士、女性同士でペアを組むものと男女でペアを組むミックスダブルスがある。

バドミントンは、緩急を使い分ける様々なショットやフットワーク、対戦相手との駆け引き、ダブルスの場合、ペアとのコンビネーションなど多岐にわたる技術を必要とし、パワーや瞬発力とともに持久力の優劣も勝負を左右する複雑で厳しいスポーツである。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として【施設・設備・用具】が原因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none">審判台の老朽化・ネジの緩みが原因で昇降の際に、審判台の転倒の可能性がある。ポストの老朽化・ネジの緩みが原因で、ネットを張る際や片付ける際にネジが緩みストッパーが跳ね上がる。床やコートマットの損傷がある。床やコートマットに汗やゴミがある。	<ul style="list-style-type: none">審判台がバランスを崩して、倒れて下敷きになる。(軽傷～重傷)ポストのネジが緩み、ストッパーが跳ね上がり、額にあたり怪我をする。(軽傷～重傷)スリップしたり転倒したりして怪我をする。(軽傷～重傷)	<ul style="list-style-type: none">試合開始前や収納時に点検をする。地震が起こった際には、審判台から降りて安全確保することを説明しておく。ゲーム開始時やインターバル中、又はラリー間に汗を拭いたりゴミを拾つたりする。

(2) 主として【活動内容】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none">相手の打ったシャトルが目にあたる。自分で振ったラケットが目や歯、顔、股間等にあたる。パートナーのラケットが目や歯、顔等にあたる。活動中にアキレス腱や足首、膝を損傷する。突然死する。	<ul style="list-style-type: none">眼球破裂や前房出血等、目を損傷する。(軽傷～重傷)歯の欠損、頭や顔の打撲・擦過症等の怪我をする。アキレス腱断裂、足首の捻挫、膝の(靭帯・半月板)損傷をする。(軽傷～重傷)心室細動等が発生する。(重傷)	<ul style="list-style-type: none">指導者による注意指導と各選手の技術向上、発生時にはアイシングの上、必要なら救急車対応を要請する。各選手による体力向上、発生時には、施設の AED を用いるとともに救急車対応を要請する。

(3) 主として【環境条件等】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例	予防策
<ul style="list-style-type: none">会場来場や帰宅途中での雷、台風等の自然災害被害が発生する。競技場内の気温・湿度が上昇する。特に新型コロナウィルス感染症、インフルエンザ、感染性胃腸炎等の流行中の大会において、集団での移動や試合を通して感染が拡大する。	<ul style="list-style-type: none">落雷や突風被害にあう。(軽傷～重傷)熱中症・熱けいれんを引き起こす。(軽傷～重傷)新型コロナウィルス感染症、インフルエンザや感染性胃腸炎等に罹患する。	<ul style="list-style-type: none">警報・注意報等の情報収集の上、注意喚起をする。発生(予想)時の競技中止の判断をする。交通機関等の運行状況を把握する。競技場の気温・湿度を計測(随時)する。エアコン使用による気温・湿度の管理をする。